

45 別府重度障害者センターにおける頸髄損傷者の食事動作獲得状況について

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 別府重度障害者センター
岩下 裕造 首藤亜理沙 佐藤 裕也 阿南 誠二

【はじめに】

頸髄損傷者のリハビリテーションを専門的に行う病院が全国的に少なく、本来獲得できるであろう ADL 動作を獲得しないまま病院から在宅に帰る方がいる。当センターでも利用開始前の病院等で ADL 動作は獲得困難と告知された方が、ADL 動作を獲得して終了する場合も多くあるため、回復期以降のリハビリテーションの効果や重要性を示すための基礎資料を得ることを本調査の目的とする。

【概要・方法】

頸髄損傷者の食事動作は「C5 レベル以上で自助具等を使用して獲得可能である」と多くの文献で述べられているが、獲得率やその獲得期間について明確に記載している文献は少ない。そこで当センターにおける利用者で、利用開始時に食事動作を獲得しておらず介助が必要な状態から、終了時に食事動作を獲得できた割合と獲得までの平均期間及び使用装具を明らかにする。

対象は平成 18 年 10 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までに利用開始した利用者の中から、利用開始時の食事動作に介助が必要であった 44 名（男性 42 名、女性 2 名。平均年齢 50.1±14.5 歳。機能分類の内訳：C4 レベル 12 名、C5 レベル 26 名、C6 レベル 6 名）とした。対象を終了時に食事動作を獲得できた群と獲得できなかった群に分類した後、機能レベルごとに平均獲得期間と使用装具を調査した。なお、食事動作が介助の判定は機能的自立度評価表：Functional Independence Measure：（以下「FIM」という。）における食事動作の得点が 3 点以下とし、食事動作が獲得された判定は 5 点以上とした。

【結果】

訓練期間内で食事動作を獲得した者は 70.45%（31 名）で、未獲得の者は 29.55%（13 名）であった（図 1、2）。機能レベル別の獲得者数は C4 レベルで 7 名 58.3%（完全 2 名、不全 5 名）、C5 レベルで 19 名 73.07%（完全 16 名、不全 3 名）、C6 レベルで 5 名 83.33%（完全 3 名、不全 2 名）であった（図 1）。

全体の獲得平均期間は 6.4 ヶ月で、機能レベル別の平均獲得期間は C4 レベルで 7.8 ヶ月、C5 レベルで 5.9 ヶ月、C6 レベルで 4.8 ヶ月であった（図 3）。

食事動作獲得者の装具使用状況では、C4 レベルでマイスプーン 2 名、装具なし 5 名。C5 レベルではマイスプーン 2 名、ポータブルスプリングバランサー 3 名、装具なし 9 名。C6 レベルでは装具なし 5 名という結果であった（図 4）。

【今後の課題】

今回、当センターの食事動作獲得の現状をまとめ、利用開始時の食事動作に介助が必要であっても 70%は食事動作を獲得できる結果が出たが、当センターを利用する事で食事動作が獲得できる要因やできない要因、また、平均獲得月数の根拠は判明していないため、これらの要因を明確にすることで今後の利用者支援やセンターの重要性を示すことに繋がると考えられる。

図 1

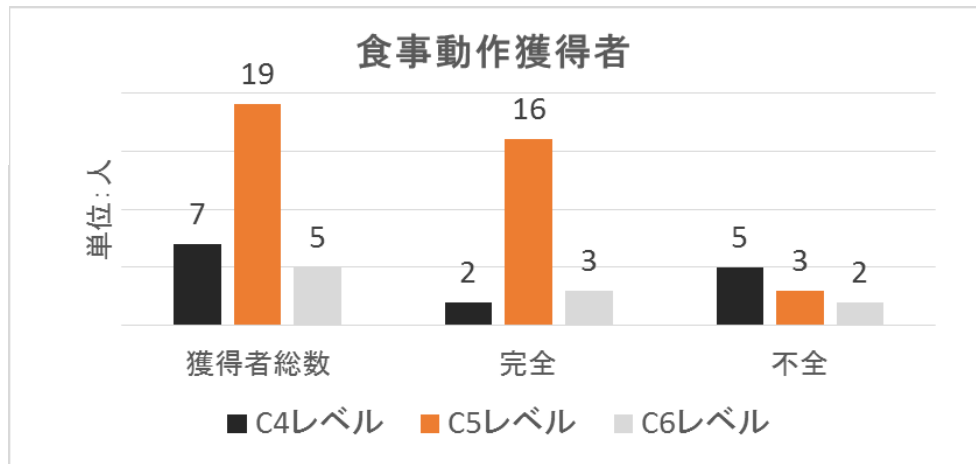


図 2

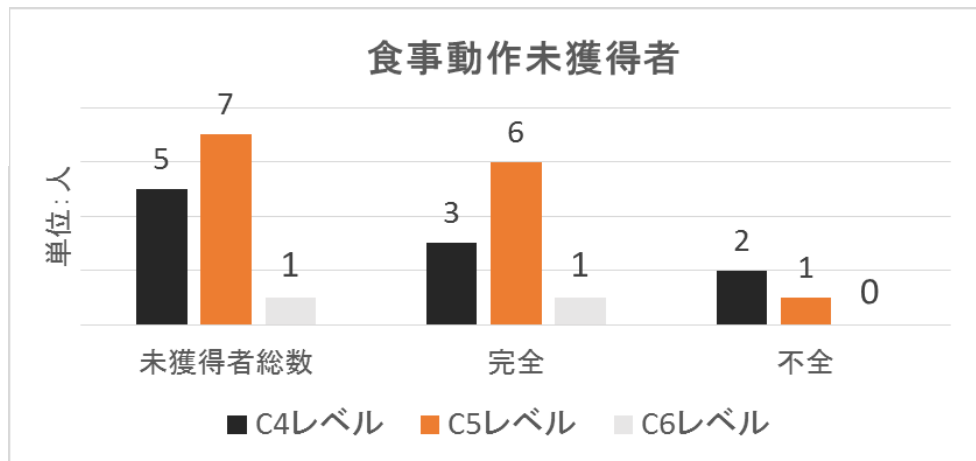


図 3

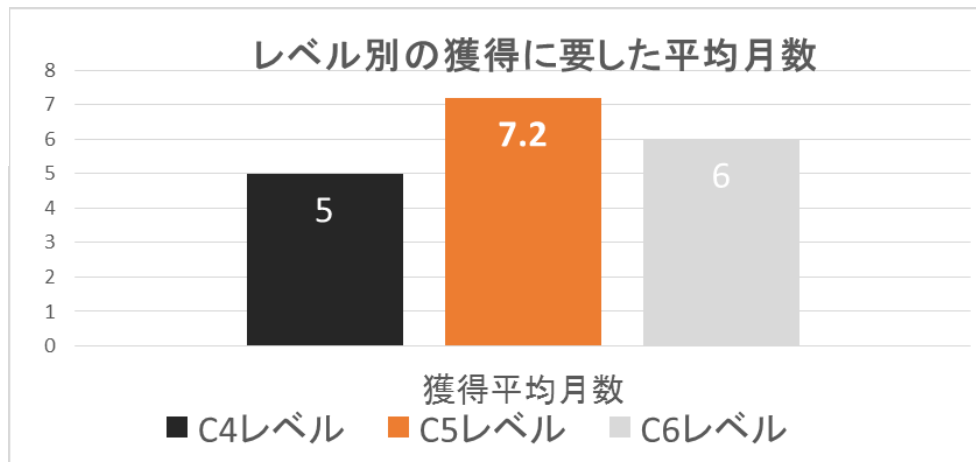


図 4

